

平成30年度第1回厚岸町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成30年12月4日（火） 14時00分～15時10分

2 場 所 厚岸町役場庁舎2階庁議室

3 出席者

(構成員)

町 長 若狭 靖
教 育 長 酒井 裕之
教育委員 田辺 正保
教育委員 濱 秀利
教育委員 平良木宣行

(事務局)

総務課

課 長 松見 弘文
総務係長 薩田 翔悟

(教育委員会)

管理課長	真里谷 隆
管理課長補佐	渡部 貴志
指導室長	山田 敏一
生涯学習課長	高橋 俊彦
スポーツ課長	高橋 政一
学校給食センター所長	櫻庭 康江
生涯学習課長補佐	小池 裕子
海事記念館長	三浦 博哉

4 傍聴者 1人

5 内 容

○司会（総務課長）

ただいまから、平成30年度第1回厚岸町総合教育会議を開催いたします。
初めに、若狭町長から、ごあいさつを申し上げます。

○町長

皆さん、こんにちは。

実は、森脇委員については、今日は欠席ということですが、昨日、教育委員の辞令を交付させていただいたこととあり、今朝になってのドクターヘリという

ようなお話を聞きまして、ビックリいたしたところでもあります。結果的には思ったよりは軽いというお話を承りまして、安堵いたしたところではありますが、速やかに元に戻れるように心からお見舞いを申し上げます。

また、皆様方におかれましては、日頃から厚岸町の教育行政に対しましては温かいご支援、ご協力を賜ってるところであります。心から厚く御礼申し上げる次第であります。

厚岸町におきましては、平成27年4月に総合教育会議を設置し、同年8月には、教育大綱を管内町村に先駆けて策定をいたしたところでもあります。

また、昨年11月には、まちづくりや教育の振興に関する基本的な方針及び講ずべき施策について示した「第5期厚岸町総合計画 後期行動計画」の期間に合わせ、平成30年度から平成31年度までを実施期間とする、新たな教育大綱を策定したところでもあります。

さて、この教育大綱については、委員の皆様からいただいたご意見に基づき、速やかに町のホームページに掲載し、広く町民に周知するとともに、総合教育会議での協議と対話を進め、また、教育委員会との連携強化を図りながら、厚岸町の教育水準の向上と教育振興の充実に寄与してきたところでもあります。

本日の会議では、平成30年度における教育委員会の事務の管理及び執行状況、さらには、学校給食費支援対策などについて、教育委員会事務局から説明をいただいた上、委員の皆様と意見交換をさせていただきたいと考えております。

どうか、忌憚のない御意見を賜りますことを、心からよろしくお願い申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。

よろしくお願い申し上げます。

○司会（総務課長）

本日の会議の進行につきましては、厚岸町総合教育会議設置要綱に基づき町長が議長となり進めていただきます。

○議長（町長）

それでは、さっそく審議に入ります。「(1) 平成30年度教育委員会の事務の管理及び執行状況について」を議題とさせていただきます。

事務局から説明をさせます。

○教育委員会（管理課長）

- 3 説明・協議事項「(1) 平成30年度教育委員会の事務の管理及び執行状況について」

配付資料1により、報告書の組立ての状況及び概要について説明

○議長（町長）

ただ今、教育委員会の管理課長から色々と説明がありましたが、何かご不明な点がありましたらお受けをいたしますが、ございませんか。

(意見なし)

○議長（町長）

それでは、無いようでありますので、報告でありますので、皆様にはご承知をお願いいたします。

○議長（町長）

それでは、続きまして「(2) 学校給食費支援対策について」を議題といたします。担当の説明をいただきます。

○教育委員会（管理課長）

■ 3 説明・協議事項「(2) 学校給食費支援対策について」

配付資料 2 により、学校給食費支援対策の趣旨並びに今後の課題及び方針について説明

○議長（町長）

今、説明がございましたが、今後の学校給食に当たっての重要な課題であるかと存じます。学校給食費の支援ということになっておりますが、給食費の完全無償化という方向についてどう考えるかという課題でもあろうかと思うわけですが、それぞれ各委員の皆様方にご意見があればと思いますが。ご不明な点がありましたらお受けいたします。

○濱委員

学校給食費の無償化ということなんですけど、確かに今、親の負担だとか子育て支援という部分で学校給食費の負担を考えていくというような流れにあるんですけど、完全無償化した場合、年間約 3 千万円のお金がかかるということで、一度、無償化にしてしまうと継続していかないと意味が無いと思います。一回、無償にしたけど、翌年お金かかって経費がかかるから、次の年、また給食費をもらうかなというふうにはならないと思うんですよね。一度無償化したからには、継続してずっと無償でやっていくという方針のもとにやっていかないと、途中でこの方針を切替えることはなかなか難しいんじゃないかと思うんで、その辺じっくり考えた中で、とにかく保護者の負担は減らすという方向は間違いないと思うんだけど、完全無償化してしまうのか、それとも、一部負担で、例えば、月額千円にするのかという考えもあるだろうし、その辺のことも含めながら、とにかく継続できる方向というのを検討していく必要があるのではないのかなと思っております。

○議長（町長）

担当はどのように考えますか。

○教育委員会（管理課長）

当然、今ここに書いておられますとおり、課題の中で、「当然である」ということを言っておられますけど、無償化、完全でも一部でもですね、税金によって支えていただいているということ、協働の仕組みや大人への尊敬を学習した教材にこの部分はなると考えておられます。町民皆で子どもを育てるという精神が根付くことは国を挙げて取り組んでいる少子化対策のヒントにもなると考えているところでもあります。子どもがやがて大人となって給食費無償化の理念を理解して、進んで納税や自分の子どもに積極的に教育を受けさせたとき、食育・徳育が実を結ぶことになるということをお考えながら、それらについても進めていきたいと考えておられます。以上でございます。

○議長（町長）

完全無償化にするのか、段階的にするのか、今、濱委員からの説明についても、今のところの考え方はどういう方向であるのか。

○教育委員会（管理課長）

それぞれ考えは今あったとおりの色々あると思います。管内では白糠町が完全無償化しています。

また、全道、全国を見た中で、例えば第二子から無償化にする方策、これも一部無償化の部分の政策であるというふうに思います。厚岸町についても今後ですね、これらを検討しながら、どう進めていくのが一番良いのかという部分をこれから協議しながら進めていきたいなと考えているところでございます。

○議長（町長）

よろしゅうございますか。

○濱委員

とにかく一回無償化したら、その後とにかく継続するという方向性だけしっかり持って進めていただければと思います。

○田辺委員

今、流れとして無償化ということが全国的にだんだん進んできているというのは事実ですし、子育てに関しては、特に学校、それから家庭だけではなくて、地域社会全体で子ども達を育てていこうというような考え方を改めて強く持っていこうという流れがあるというような中で、この給食費の無償化という部分は、地域全体で子どもを育てているというような部分をアピールする上でも効果はあるのかなというふうには思っているんです。ただ、今言うように年間3千万円になる部分、これは固定費として、ずっと続いていくという形になれば、教育委員会の方としても進めれるものであるならば進めていきたいというような考えがあるんですけども、これによって町の財政的な部分はどうか、これは、町の全体的な財政の部分ときちっと調整を図ってやっていかないとならないんだらうなというのが私の考えであります。

それともう一つ、やっていく部分については、その後、給食費が無償になったという部分、これが長く続いていった時に、当たり前であるという考え方が持たれるようであれば、これは問題ではないのかなと思いますし、その辺、子ども達や地域全体皆でもって、あなた方の育てていく部分を支えているんだよという部分をアピールしていくという部分を、この無償化を通じながらやっていくということは大事だし、そういう部分での効果というのものもあるのかなというふうにも考えております。それが教育的効果なのかなというふうに思います。

○議長（町長）

その他ご意見ございませんか。教育長何かありませんか。

○酒井教育長

今、子育て支援、それから保護者負担の軽減、これは、若狭町政の大きな重要施策にも入っているわけですから、教育委員会としても色んな形で子育て支援をしていくのが教育委員会としての筋だろうと言うのは、一つ、大きな押さえとして持っていたいなと思っています。そんなこともあって、教材費の無償化も何とか実現することができましたし、修学旅行費の半額援助も何とか今年度から実現をしています。そういった流れの中で、給食費をどう考えるのかという部分は、先ほど各委員さんからの意見にもあったとおり、これについては、色々な考え方が多分あるんだろうと思いますし、町民の皆さんも色々な考え方を持っていていらっしゃるんだろうと思います。それをどう理解を図りながら、束ねて軽減という形の方向に持っていくのか、そこを模索しながら検討していきたいと思っています。

これ、どこの市町村だったかちょっと記憶が飛んでますけれども、給食費の無償化をするために、行政職員の給与をカットしてまでもやらざるを得ない状況というのが生じているというのも実態としてあるやに聞いているものですから、ここの部分は、本当に毎年3千万円というのがかかっていくということを受け止めて、各委員さん言われたとおり、どういう方向が本当に将来にわたって継続的に持続していけるのかということを検討していきたいというふうに考えているところであります。

○議長（町長）

はい。それでは私からは町長という立場でお話をさせていただきますが、ご承知のとおり現下における厚岸町は、やはり、どこの自治体もそうではありますが人口減少、その中でやはり一番大きいのは、施策として子育て支援対策を強固にしていかなければならない時代にきていると、私自身もそのように思っておるわけでございます。そういう意味において、過去、子育て支援対策を厚岸町独自のものもありますし、さらにはまた、助成補助金をもらいながら、子育て支援対策を強固なものにしていくと、推進していくと、行政が行われておるわけではありますが、これは教育問題だけではそうではあります、ご承知のとおり、新年度からは医療費の無料化も高校までとさせていただきますところでございます。そういう中で、子どもを育てるということは、大変お金がかかる。財政的な負担が大きいという社会状況を考えますと、やはり子育て

支援について最も大事なものは財政負担ではなかろうかなど、私は理解をさせていただいているところでございます。そういうことで、これは、今の時代じゃなくて、私は前々から政策的な公約として掲げておったわけでありましたが、先ほどからご意見がありますとおり、学校給食法というのがある、それに縛られてですね、中々実現ができなかったということは、法律から言いますと、学校給食費は、保護者の負担になっておるわけでありまして。その法を乗り越えた考え方というものが、今日理解されるように相成ったわけでございますので、そういう意味から言って、先ほど管理課長が説明いたしましたとおり、学校給食費については無償化と言っても法的な問題はないということが、新たに解釈としてでてきたわけでありまして、私といたしましては、前々からの政策的な考えでもありましたので、新年度から向かってですね、無償化をしていくべきではなかろうかと言うことで、教育委員会とも協議を重ねているところであります。

また、予算については、3千万円と言いますと大変な金額ではあります、これは町長として責任を持って執行をさせる問題であろうと、いつどんなときでも、やはり財政上は大変厳しいわけでありまして、私はあくまでも学校の給食費無償化というのは、政策的なものとしてやっていきたいと、町長としての考えを持っていることでもあります、ここで話をさせていただきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

○田辺委員

町長がそういう形の中で、いわゆる子育て支援、それから子ども達の教育向上という両点から、そういう考え方の中でもって予算執行していただくということは非常に頼もしく考えております。実際にやっていく上では、色々な考えの人も町民の中に居ると思うんです。過去、先に実施している実施例を見てても、子どもの食べる部分の中身については、保護者はその分を負担してもいいんじゃないかといった考え方の人も居るようですし、また一方で、実際にやったところの統計なんか見ますと、いわゆる給食費で無償化になったことで浮いたお金をどういうふうに使ったかということをご家庭にとったアンケート結果を見ると、結構子どもの他の教育費に使っているという面もあるんですね。例えば、通わすことのできなかった塾に通わせたり、あるいは教材を購入したとか、そういうような部分での、いわゆる個々に応じた教育資材のアップだとか、そういったことに使われている例も結構ウエイトを占めてきているような部分もありますので、単に給食費がタダになるというだけでなく、余裕のできたお金の中で他に教育を推し進めるという効果も出ているというようなメリットも現れているという報告も出てますので、そう言った部分は期待していきたいなと思っております。それと、もう一つは進めていくのであれば、先ほど言ったように、色々な考え方がありますし、なぜこれをやるんだと、これをやることによってこうなんだという、色々な効果だとか色々ありますからそういうのも含めて、町民の方、あるいは保護者の方にですね、児童にも分かるように指導していかなければならないなと思っておりますので、それらを併せて進んでいければ効果は期待できるのかなと思っております。

○議長（町長）

それとですね、教育委員会の皆さんにお願いしたいことは、やはり食育なんです。食育は家庭だけの問題だけではなく、学校面における食育、学校給食もちろんそうではありますが、無償化することによって、今、ご指摘されたような食育という問題についてもですね、新たな見地から言うと教育を目指して考えてもらわなければならない。このような新たな課題も出てくるかと思いますので、無償化することによってですね。この点もしっかりと現場の教育の中で食育教育を行っていかなければならないと考えておりますので、その点もご理解いただければと思います。

管理課長、提案者として、無償化についての説明をいただきましたけれども、どういう方向性とするのか、結果も出すんですか。

○教育委員会（管理課長）

今、方向性を出すという話ではなくて、教育委員会としてはこういう考え方でいきたいなということでございます。

○濱委員

大変町長から力強いお言葉をいただいたので、是非とも子ども達のため、さらには保護者のために、この給食費の無償化というものを是非とも実現し、継続していただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（町長）

今、新年度予算の編成中ではございまして、当然今、総合教育会議の中で意見があったということも考慮しながら、来年に向けての予算編成、特に学校給食費の無償化についてはどうするかということについては、ここは総合教育会議なものですから、教育委員会との協議の中で提案があれば、それに応えていければということでもありますので、ご理解いただきたいと存じます。

○議長（町長）

それでは、続きまして「(3) アッケシソウの保存と活用について」を提案させていただきます。

説明をよろしく申し上げます。

○教育委員会（生涯学習課長）

■ 3 説明・協議事項「(3) アッケシソウの保存と活用について」

配付資料3により、アッケシソウのこれまでの経過及び人工栽培の推移等について説明

○議長（町長）

今、説明をいただきましたが、何かご意見があれば伺いますが。

○田辺委員

これも先日、教育委員会事務局からの説明をいただいて、なるほどなと思ったんですけども、今回、今後取り組んでいく部分については、東京農大の中村准教授、この方が、いわゆるアッケシソウの植生に当たり、こちらの気付いていなかったことも新たに気付いて指導してくれるということで、そういうような指導方法も取り入れながら、やっていきたいという説明を受けまして、それによって効果が出てくるのかなと期待しているんですけども、厚岸の部分、自然自生地の部分については残念ながら自然環境の問題でいずれ無くなってしまうのかなと、危険性を感じているところではあるんですけども、特にチカラコタンの方にですね、人工的に残っていく形ができるのであれば、是非残して行ってほしいなと思っております。

また、当然、取り組んでいくためには経費もかかってくるなと思っております。この辺についても財政的なバックアップも是非、考慮いただきたいと思いますところであります。

○議長（町長）

その他、何かございませんか。

○濱委員

せっかく、アッケシという名前の付いたものなので、アッケシという名前が残っているのにも関わらず、実際は、網走市でのサンゴソウということが有名になっているので、できれば、網走市のような観光的な分野で、このアッケシソウというのが使えればベストなのかなとは思っただけでも、実際のところ、現在、候補に挙がっているチカラコタンにしても、光栄地区についても、観光ということを考えると、まだ光栄の方は、交通の便は少しは良いんだけど、チカラコタンに関しては道が狭いんで観光ということは難しいんだけど、チカラコタンで半自然的な形でできるということになれば、今度、もう少し研究が進めば、もっと見やすいところとか、町内でもっと目に付くところに育てるという方策が見えてくるのではないかとということも考えて、期待を込めながら、是非とも事業自体は何とか厚岸町で成功させていただきたいなというふうに思っております。

○議長（町長）

それでは、私から意見よろしいですか。

このアッケシソウは、貴重な植物として、世界的な学名なんです。これはアッケシという名前で世界的に学名が付いているのは、アッケシソウだけであります。しかしながら、地元でどのくらい理解されているのかと言えば、今、濱委員からお話がありましたとおり、網走市の卯原内で、サンゴ草として、観光資源として利用されておるという実態でありますので、私といたしましては、卯原内も含めて、関係者の特にマスコミ等におきましてはサンゴ草ということで放送したりしておったわけありますので、正式にサンゴ草ではなく、正式名称はアッケシソウであるということでご理解

をいただいたところであります。この頃は、ほとんどアッケシソウという学名を使って、色々と発表されておることは大変ありがたく思っておるわけであります。そのアッケシソウが、一部まだ繁茂いたしておりますが、観光資源としては、大変だという意味合いもあり、目の前で見ることができる何か良い方法がないかということでございまして、港町の陸にですね、4区画くらいを埋立てて、塩水でポンプアップさせる等、色々と考えたわけではあります。結果的には雑草が増えてダメだったわけございまして、このアッケシソウというのは単年草なんです。身近に皆さん方が見ることができる場所に何とか考えてもらえないかということで教育委員会として、場所等を含めて研究・調査をいたしているところであろうと思っております。それにつきましても、専門家にその場所等を確認してもらわないと、今まではどちらかという海事記念館だけのこととして行ってきたという経緯もありますので、この際、専門家に要請しながらもアッケシソウというものを身近に見ることができる場所等も含めて考えていくべき貴重なアッケシソウであるということですので、考えながら、今後、厚岸町における観光資源としても期待がされるのではなかろうかと思っておりますので、卵原内だけではなく、厚岸町もあれだけのものになれば大変ありがたいという気がいたしておるところでございます。大変、ご苦勞をおかけいたすわけですが、どうかこの点、現況をご承知いただけるものと思っておりますので、よろしくお願い申し上げたいと存じます。

○議長（町長）

それでは、次に「(4) 宮園公園スケートリンク場整備について」を提案させていただきます。

説明をよろしくお願いいたします。

○教育委員会（スポーツ課長）

■ 3 説明・協議事項「(4) 宮園公園スケートリンク場整備について」

配付資料4により、宮園公園スケートリンク場整備に係る施設の概要及び年間の稼働状況等並びに施設整備計画の経緯や今後の展開について説明

○議長（町長）

今、説明があったわけですが、ご不明な点があれば伺いしますがいかがでしょうか。

○濱委員

先日、教育委員会事務局から、この資料をもとに説明を受けましたが、どう考えてもこれだけの金額がかかってしまうということは、難しいような印象を受けました。

最初、この計画を伺ったときに、パイプ式リンクでも作るのではないかと思っただけの金額だったのが、現状のままで10億円かかるということですので驚いたところです。

暖冬の影響で氷が張るのも遅くなっている現状を考えると、自然に氷を張るのを待

つ状況で今さら10億円をかけて作るのは、町民の理解は得がたいのではないかと考えております。

○田辺委員

とは言いながらも、立派な選手が出たりしているわけではありますが、現実的にこの施設を全て自前でどうにかしていくのは厳しい印象を受けています。

では、どのようにするかと考えたときに、釧路市にある柳町スピードスケートリンク場をもっと利用できるような環境に整えていく必要があると考えます。そこでネックになるのが、交通的な部分とか色々な問題はありますが、そこへの支援を含めて考えていくのも一つの方法なのではないかと考えています。

○議長（町長）

それでは、私からも一言お話しさせていただきたいと思いますが、やはり、金メダリストが出たということは、厚岸町にとっても誇りであり、後輩の励みにもなっているんだろうと思うわけであります。その中で、果たして現行のスケートリンク場の中でどうだろうかという発想からですね、できれば、かつてスケート少年団も居た、佐藤彩乃選手もそこで練習して、今日を迎えていたということを考えれば、やはり、スポーツ振興という意味合いから言って、施設整備が最も大事なのではないかということで、今のままのスケートリンク場で良いのかということから始まったわけであります。ですから、傾いたスケートリンク場よりも何か良い方法があれば、整備をすべきことではないかということで、教育委員会にお願いをし、返答をされたやに受け止めております。その結果、10億というとてもない金額が積算されたということでありますので、これでは財政的にそう簡単にできるものではないということであります。しかしながら、今のスケートリンク場で満足できるのかということでありますが、昔であれば、それぞれの小学校又は中学校のグラウンドで板を張るなどし、スケートリンク場を作っておりました。しかしながら、この頃はグラウンドを痛めてしまうということで、これも無くなってしまったところであります。やはり、今日では、宮園公園スケートリンク場でしか考えられないのではないかと考えております。

一方で、柳町スピードスケートリンク場まで通わせることも限られてしまうので、常日頃から気軽にスケートリンク場を利用できるというのであれば、やはり地元になければならないということで、スポーツ課として、現行で良いのか、又は、安価な方法で整備ができるのかを一つの検討事項として考えていかなければならないのではないかと考えてありますので、スタートしたけれども結果的には予算の中で、大幅に10億という積算が出てきたということで、パイプ式とか様々な方法があるでしょうし、まだまだ研究する余地があるのではないかと考えておりますので、今日のスケートリンク場で満足してしまうのはいかがなものなのか、やはり、もっと良い方法はないのかということでありますので、この点は、今、スポーツ課から報告がありましたけれども、あくまでもこれは、これまでの経過報告でありまして、ですから、このとおりやるのではないということを理解しておいていただきたいですし、今のスケートリンク場で満足できるものではないということだけははっきり言えるのではないかと

と思っております。

○田辺委員

身近にそのような場所があれば、小さい頃から嗜みながら力を付けていくということになるんでしょうし、スケートリンク場が一番身近なところにあるのが望ましいのではないかと思います。ただ、現行のリンク場の中では、傾斜しているという状況でありながらも、現場ではかなり苦勞しながらも整備をしております。とは言いつつも、天候や温度を踏まえても年間約40日間の稼働しかできないのが現状であります。今後も今のリンク場を少しでも氷の状態を保てるように努力していただきつつ、継続して使用できる方向で執り進めていただければと思います。

せっきく管内の施設を活用することによって数ヶ月通じて利用できることもあるので、そういったことも並行して考えていかなければならないと思っておりますし、よりコストを削減した中での整備手法も研究を進めながら、それを取り入れていただきたいと思っております。

○酒井教育長

オリンピック選手を育てるためのリンクという押さえは、私はしておりません。佐藤彩乃選手にも、小さい頃から宮園スケートリンク場を利用しておりましたけれども、実際にレベルが上がっていけば釧路市のリンク場でトレーニングを積んでいるのが現状です。私としては、冬場の子ども達、あるいは、親子のコミュニケーションの場であったり、体力づくりの場であったり、スポーツに触れ合ったりする場であったり、というスケートリンク場の押さえをすべきではないかと思います。

実際、10年前と比較すると、児童・生徒数が240人減っていて、これは、まさに厚岸中学校と真龍中学校の生徒数を合わせた数が、この10年間で減っております。ましてやスケート少年団も無くなってしまいましたし、今残っている野球にしても合同チームを作ってやつの状態であります。来年度からは野球チームも危ぶまれるという話も聞いております。こういった町内の色々な状況を考えたときに、私は今時点でベストと思うことは、今のスケートリンク場を何とかして作って、一旦、氷が張れば何とか1週400メートルのスケートリンク場ができるわけであります。そこで十分子ども達は体力づくりもできますし、スケーティングもできます。私はこれでやっていくのが今の現状に見合った冬のリンク場を使ったスポーツ振興の一つではないのかなと思っておりますし、もう少し言わせていただければ、リンク場を使ってスケート以外のスポーツ振興も含めて町民の冬期間のスポーツ振興を図っていく必要があると考えております。

○議長（町長）

教育長とも相談して、体育振興課をスポーツ課にしたのは、そういう意味があります。ですから、オリンピック選手を作るのではなくて、町内にオリンピック選手が誕生したことによって、子ども達が夢と誇りを持てるような施設整備をしていかないと思うわけでありまして、やりたい人に対する要望に応えることも行政としての責任だ

ろうと思っています。ただし、費用と効果を考えるのであれば、10億を費やして大きなリンク場を整備して、果たして何人来るのかという計算にもなりますけれども、ただ、悪いリンク場よりも良いリンク場にした方が使う方は良いわけであります。ですから、そういう面における施設整備については、身の丈に合った施設整備をしていかなければならないだろうと思っています。今回を契機にして、子ども達が夢や誇りを持てるようなことも教育だと思っていますので、この点もよろしくお願ひしたいと思います。

○議長（町長）

それでは、「(5) その他」ございませんか。何かありますかでしょうか。

(意見なし)

○議長（町長）

それでは無いようでありますので、最後に、私からお願いをさせていただきます。

総合教育会議は、行政と教育委員会との色々な話し合いの中で機会が設けられたわけであります。教育委員会と行政が連携を図りながら、より良い人材の育成、そして教育効果を現していかなければならないと考えております。ちょうど新年度予算の時期でもありますので、財政厳しい折ではありますが、私は、まちづくりは人づくりという基本方針を持っている町長でもありますので、今後とも皆さんと一緒に素晴らしい厚岸町を作って参りたいと考えておりますので、よろしくお願ひを申し上げて終了とさせていただきます。誠にありがとうございました。